

Title	新刊学術誌紹介
Author(s)	武内, 紹人
Citation	内陸アジア言語の研究. 11 p.151-p.152
Issue Date	1996-07
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/18948
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

新刊学術誌紹介

1994年から1995年にかけてチベット学と東洋文献学の学術誌が中国とロシアから創刊された。いずれもユニークな性格を持つ雑誌だが、まだその存在が広く知られていないようなので、この機会に簡単に紹介したい。

『西藏考古』第一輯、四川聯合大学西藏考古与歴史文化研究中心、西藏自治区文物管理委員会編、四川大学出版社（成都、1994）。

チベット考古学についての世界最初の専門誌である。中心メンバーは霍巍と石應平という四川大学考古学のスタッフ。西藏自治区文物管理委員会も四川大学考古系の卒業生で占められているらしく、四川大学がチベットにおける考古学的発掘を独占しているといえよう。彼らは既に『南方民族考古』第4輯（西藏文物考古專輯、四川科学技術出版社、1991）を出し、帝国（吐蕃）期からそれ以降における大量の墳墓や石器時代の遺跡の存在などチベット考古学について注目すべき成果を公刊している。

その後、霍巍氏らによる西チベットのピーヤン・トンガ（皮央・東嘎）の石窟群発見についての朝日新聞報道（1994年1月14日）が山口瑞鳳氏の批判を受けた（『週間金曜日』第28号、1994年6月）。文献との照合による年代考証においては確かに問題がある。しかし、外部者によるチベットの考古学的発掘ができない以上、彼らのもたらす情報は魅力的だ。とくに文献以前の時代に関する考古学的発掘はチベットについて未知の情報を提供してくれる。創刊号にも期待を裏切らない貴重な資料が提示されている。

Manuscripta Orientalia, International Journal for Oriental Manuscript Research, vol.1, No.1, July 1995, Russian Academy of Sciences, The Institute of Oriental Studies, St. Petersburg Branch, Thesa: St. Petersburg-Helsinki.

東洋語写本学の英文の専門誌がロシア東洋学の中心セントペテルスブルグの

東洋学研究所から創刊された。同研究所所蔵の西夏語・サンスクリット・ウイグル語・アラビア語・チベット語など豊富な東洋語文献の研究・公刊の場を提供するのが主な目的である。当然研究所のメンバーの論文が中心になるが、外からの寄稿も歓迎するとのこと。また、研究対象も同研究所所蔵文献に限らない。

資本主義に移行後、ロシアは経済的にかなり苦しい状況にあるようだが、同研究所においてはコンピュータやコピー機の導入など新しい動きがあり活気が感じられる。本誌の創刊も新しい動きの一環と考えられる。ロシアのビジネスマンの投資にもとづき、年4回発行という意欲的な企画である。初年度の1995年度のみ3回発行予定で、無事予定通り出版された。今後の継続を望みたい。

寄稿の送り先は、Prof. Dr. Yuri A. Petrosyan, Editor-in-chief, St. Petersburg branch of the Institute of Oriental Studies, Russian Academy of Sciences, 18 Dvortzovaya nab., 191186, St. Petersburg, RUSSIA.

(武内紹人)